

# 公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

## 令和元年度 事業報告書

### 目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	2
1 研究活動	
（1）研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
（2）鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
（1）指導法に関する講習会の開催	
①音鑑・夏の勉強会2019	
②音鑑・冬の勉強会2019	
③音鑑・ICT勉強会2019	
（2）研究大会・講習会等の後援	
（3）広報活動	
（4）音楽鑑賞教育マイスター会員の拡充	
3 出版	
（1）季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
（2）書籍、映像資料の発行	
II 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業（公益目的事業2）	6
1 第52回 論文・作文募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	7
1 音楽鑑賞のきっかけづくり	
2 財団保有の音楽関連資料の活用	
3 財団主催コンサートの開催	
4 財団主催音楽鑑賞講座の開催	
5 電子書籍の発行	
6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
7 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	9
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	9

# I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

## 1 研究活動

### (1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

令和元年度は、新学習指導要領の内容と新しい評価をどのように授業に落とし込んでいくか(これからの鑑賞指導をどう考え、どう構想していったらよいか)について研究を行った。

※2年間の研究のうちの1年目。

上記以外に当財団の主催講習会である「音鑑・夏の勉強会2019」「音鑑・冬の勉強会2019」におけるグループ研修、ワークショップ等を企画立案し実施した。

No.	開催日	検討内容
第1回	平成31年4月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領を実践していくための授業構想について、方向性や内容を検討</li> <li>夏の勉強会：企画</li> </ul>
第2回	令和元年 6月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏の勉強会：グループ研修の内容検討</li> <li>新学習指導要領に基づいた授業構想の方向性について検討</li> </ul>
第3回	令和元年 7月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏の勉強会：グループ研修の内容検討</li> <li>新学習指導要領に基づいた事例開発のための教材と授業構想について検討</li> </ul>
第4回	令和元年 9月16日 (小学校部会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の勉強会：ワークショップの内容検討</li> <li>新学習指導要領に基づいた事例開発の方向性と授業構想について検討</li> </ul>
第5回	令和元年11月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の勉強会：ワークショップの内容検討</li> <li>新学習指導要領に基づいた授業構想の方法について検討</li> </ul>
第6回	令和元年12月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の勉強会：ワークショップの内容検討</li> <li>新学習指導要領に基づいた授業構想と具体例について検討</li> </ul>
第7回	令和2年 2月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に基づいた授業構想と具体例について検討</li> </ul>

### 研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

区分	名前	職名・役職
主管	藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	梅宮 真里	福島県福島市立吉井田小学校教諭
	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手東小学校教諭
	熊倉佐和子	東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立つづきの丘小学校校長
中学校	安部 文江	長野県小諸市立小諸東中学校教諭

	勝山 幸子	東京都港区立御成門中学校主任教諭
	高道有美子	東京都八王子市立打越中学校主任教諭
	長者久保希史子	青森県八戸市立北陵中学校教頭
	水谷 愛	埼玉県川越市立鯨井中学校教諭

## (2)鑑賞指導に関する調査

音楽科で今後必要とされる教材、教具に関するニーズ調査を継続的に実施し、その内容を研究委員と共有するとともに、音鑑・ICT勉強会2019の講義内容に取り入れ参加者と共有した。

## 2 普及活動

### (1)指導法に関する講習会の開催

#### ①音鑑・夏の勉強会2019（教員免許更新講習選択領域12時間+6時間認定）

体験型の研修会として、1日目・2日目は鑑賞指導と評価について、主にグループ毎に研修を行った。ベートーヴェン作曲「トルコ行進曲」、「小さい秋みつけた」、「魔王」、「神田祭の音楽」を教材に、さまざまな音源を聴き比べ、ねらいに適した教材を選ぶ方法、「共通事項」を窓口にした楽曲分析の方法、題材構成から指導の流れの考え方や評価の方法などを、講師のアドバイスのもと深めた。3日目の音楽講座は「能」について、能の歴史、演目、狂言との関係、能面・装束・舞台、能の音楽を講義と演習で学び、謡、鼓、仕舞を体験した。

日 程：令和元年8月17日～19日（3日間）

会 場：松本記念音楽迎賓館（東京都世田谷区）

受講者：第1・2日 37名 <内訳> 小学校教員16名、中学校教員13名、  
その他8名

第3日 35名 <内訳> 小学校教員14名、義務教育学校1名、中学校教員14  
名、中等教育学校1名、高等学校教員1名、その他4名

内、教員免許状更新講習受講者 第1・2日：19名、第3日：22名

テーマ：よりよい授業を求めて

内 容：第1日（1）講演「よりよい授業を求めて」

（2）講義「これからの鑑賞領域の指導と評価」

（3）グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際：事例作成

第2日（4）グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際：事例作成（続き）

（5）グループ研修の発表、講評

（6）履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

第3日（7）講義と演習「能について」

（8）履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講 師：藤沢章彦（当財団理事・研究主管）、小早川修（シテ方観世流能楽師）、曾和伊喜夫（小鼓方幸流）、財団研究委員5名：館 雅之（神奈川県横浜市立つづきの丘小学校校長）、梅宮真里（福島県福島市立吉井田小学校教諭）、河崎秋彦（茨城県見取市立取手東小学校教諭）、長者久保希史子（青森県八戸市立北陵中学校教頭）、安部文江（長野県小諸市立小諸東中学校教諭）

後 援：全日本音楽教育研究会

#### ②音鑑・冬の勉強会2019（教員免許更新講習選択領域12時間認定）

財団の研究成果の発表と音楽科教育の今日的な課題や情報を共有すると共に、音楽の視野を広げる場として開催した。

日 程：令和元年12月26日～27日（2日間）

会 場：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

受講者：120人 <内訳> 小学校教員58名、義務教育学校2名、中学校教員41名、

中等教育学校1名、高等学校教員6名、特別支援学校2名、その他10名

内、教員免許状更新講習受講者24名

テーマ：よりよい授業を求めて

内容：第1日 (1) 講演「よりよい授業を求めて」  
(2) 講演「情報活用能力の育成について」  
(3) 実践発表「ゲストティーチャーとつくる授業」  
(4) 音楽講座「合唱の多様さとその魅力」  
第2日 (5) 講演「音楽科における指導と評価の一体化」  
(6) お話とワークショップ「鑑賞指導における音楽と体の動き」  
(7) 分科会ワークショップ「音楽のよさや面白さを味わう鑑賞指導」  
(8) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講師：藤沢章彦（当財団理事・研究主管）（1）  
志民一成（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）（5）  
佐藤和紀（常葉大学教育学部講師）（2）  
高倉弘光（筑波大学附属小学校教諭）（6）  
ハルモニア・アンサンブルから12名（4）  
財団研究委員10名（7）

発表：石川県金沢市立長田中学校教諭 沼田幸子（3）

後援：全日本音楽教育研究会

③ 音鑑・ICT勉強会2019（教員免許更新講習選択領域6時間認定）

音楽科においてもICTを活用した授業が求められている現状に対し、音楽の授業で活用できる教材の作り方など、ICT活用の初歩的な勉強会を年2回開催した。

日程：令和元年9月7日（1日間）

令和元年9月8日（1日間）

会場：松本記念音楽迎賓館（東京都世田谷区）

受講者：述べ9名〈内訳〉小学校教員4名、中学校教員3名、中等教育学校1名、高等学校教員1名

内、教員免許更新講習対象者：5名

内容：(1) 講義「教育の情報化と音楽科教育」  
〈教育の情報化・情報教育・教科教育におけるICT活用・音楽科におけるICT活用などについて〉  
(2) ワークショップ「デジタル教材を作ってみよう」  
Windowsの基本的なソフトウェアを使用して、鑑賞指導用の簡単なデジタル教材作成方法を研修。  
(3) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講師：林田壮平（当財団事務局主管・ICT担当）

(2) 研究大会・講習会等の後援

鑑賞の指導法に関する研修会に講師を派遣・紹介、機材を貸出するなど、各地の音楽教育研究会などの研修を12件支援した。

- ・「これからの鑑賞の授業」講習会への講師派遣。（7件／参加人数：284名）
- ・ICT活用のための講習会への講師派遣。（4件／参加人数：69名）
- ・機材貸出し。（1件）

(3) 広報活動

●事業案内パンフレットの配布

事業案内パンフレットを制作し、約2,800部を配布した。

●出版物カタログの送付

販路開拓のため、出版物カタログを制作し、学校教材取扱業者など約180社に送付した。

●音楽教育研究大会に出展し、先生方と直に接し事業を広報した。その際、事業内容に興味をもってもらうため、販促物として制作したクリアファイルを配布した。

・全日本音楽教育研究会全国大会 東京大会(総合大会) 他2件

●音楽教育研究大会の紀要等に広告を掲載した。

・全日本音楽教育研究会全国大会 東京大会(総合大会) 他9件

●インターネットの活用

音楽教育関係者向けの当財団ウェブサイト「ONKANウェブネット」や、メールマガジン、SNSを活用し、事業情報をタイムリーに発信した。また、研究大会や研修会などの音楽教育に関わる情報や、「音楽鑑賞教育」誌のバックナンバー記事など授業に役立つ情報も発信した。

### 3 出版

#### (1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

年4回、季刊「音楽鑑賞教育」(V o l . 3 7 ~ V o l . 4 0) を発行した。特集テーマは、編集会議を設定して、実践的な授業づくりについて、いろいろな角度から検討して決定した。また、授業づくりに役立つよう教科書掲載の教材を中心に、教材研究に役立つ情報「教材ノート」、その教材を扱った展開例「私のレシピ」を毎号4曲取り上げた。

V o l .	通巻	発行日	特集
37	541号	平成31年4月1日	音楽の授業づくり 「鑑賞における音楽と体の動きの関連」
38	542号	令和元年 7月1日	音楽の授業づくり 「ゲストティーチャートの協働と課題」
39	543号	令和元年10月1日	音楽の授業づくり 「教材研究の方法と授業への生かし方」
40	544号	令和2年 1月1日	音楽の授業づくり 「鑑賞指導における『知識』とその生かし方」

#### 編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名前	職名・役職
川池 聡	当財団理事
加藤 徹也	当財団理事／武蔵野音楽大学教授
加藤富美子	東京音楽大学客員教授
佐野 享子	横浜高等教育専門学校講師
藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

尚、年間購読者数を増やすために、教員歴の若い教員にも取り組みやすく、読みやすいものとなるように、写真やワークシートの掲載を増やしたりするなど、誌面構成を工夫した。

#### (2) 書籍、映像資料の発行

●平成30年度の研究活動で開発した研究成果「指導事例と教材」を、DVDブック事例集4「歌曲」(事例と解説、ワークシート等の補助資料、映像資料)として出版した。

## Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業 (公益事業目的2)

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。令和元年度の選考委員会は任期2年の2年目となり下記3名の方に委嘱した。なお、論文・作文の審査を行うための選考専門委員は、作文の部を一時休止したため、研究助成の部のみ下記3名の方に、審査顧問を下記1名の方に委嘱した。

※選考委員長とチーフを除き五十音順、職名及び役職は令和元年10月現在、敬称略

### 選考委員

渡邊 學而	選考委員長／当財団常務理事／音楽評論家
河野 正幸	聖徳大学教授／全日本音楽教育研究会副会長
森 俊介	パイオニアウェルフェアサービス株式会社 代表取締役社長

### 選考専門委員 研究助成の部 ◎：チーフ

◎藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
小佐野 圭	玉川大学教授／全日本音楽教育研究会常任理事
加藤富美子	東京音楽大学客員教授

### 審査顧問

福井 直敬	武蔵野音楽大学学長／全日本音楽教育研究会会長
-------	------------------------

### 1 第52回 論文・作文募集

今年度は、作文の部を一時休止しているため、研究助成の部のみを実施した。

#### ①募集テーマ

研究助成の部 「鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究」

#### ②実施期間

募集期間：令和元年 7月 1日～ 9月30日

審査選考：令和元年10月 2日

令和元年10月 4日～11月 6日

令和元年11月19日

入選発表：令和元年12月 2日

令和2年 4月 1日

審査委員会

部門別審査・審査委員会

最終選考・選考委員会

ONKANウェブネット及び郵送通知

入選論文発表

(季刊「音楽鑑賞教育」V o 1. 4 1)

#### ③応募状況

応募数 1件

#### ④審査基準

次の(1)から(4)までを満たす研究計画である

(1) 鑑賞領域の学びを中心としている

(2) これからの音楽科教育に資する内容である

(3) 実践を伴った研究である

(4) 研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである

⑤入選結果

入選 1件

⑥副賞

助成金 498,200円

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計6件に対して賛助を行った。

### Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

1 音楽鑑賞のきっかけづくり

財団ホームページの「音楽鑑賞のすすめ」の情報の更新をもって、このテーマを進めた。

2 財団保有の音楽関連資料の活用

松本記念音楽迎賓館のファンクラブの会合や館内見学の折、音源を使い、高品位の再生装置（TADシステム）での鑑賞を行なった。また館内の音楽資料室をご案内した。

3 財団主催コンサート

① 世界三大ピアノ聴き比べ&弾き比べ

公演日：2019年8月18日 17時開演

会場：杉並公会堂

入場料：一般2,500円 小学生以下500円

来場者：約400名（招待30名含む）

出演者：松原聡

内容：

ピアノの構造からその演奏上の特徴を、俗に言われる世界三大ピアノのみならず、幅広く習得しているピアニスト、松原聡氏をティーチング・アーティストに迎え、ステージ上に並べた、ベーゼンドルファー、スタインウェイ&サンズ、ベヒシュタイン（順不同）の比較を、同一曲で行い。さらに、それぞれのピアノに合う楽曲を聴衆に味わっていただくもの。終了後、希望者から抽選で、3大ピアノの弾き比べを実施した。10歳前後の子どもの試奏が多かった。

② ONKANファミリーコンサート「紙芝居そしてサウンドオブミュージック」

公演日：2020年2月2日 14時開演

会場：世田谷区民会館ホール

入場料：全席自由 3歳以上入場可 託児施設なし

前売り一般2,500円 中学生以下1,000円

ペア（一般と中学生以下）3,000円

当日 一般3,000円 中学生以下1,000円

共催：株式会社世田谷サービス公社

後援：世田谷区教育委員会

来場者：約300名（招待40名）

指揮：渡邊 學而

出演：ソプラノ；生出悦子 アルト；北爪和代 テノール；都留俊輔

バス；松井永太郎

朗読とナレーション；和泉妃夏 ピアノ；村沢裕子 紙芝居の絵；村澤綾香  
合唱；世田谷区民合唱団有志、世田谷区立赤堤小学校

内 容：

◎創作紙芝居と音楽「きつねと与平」 20分

大型スクリーンに絵を映しながら、紙芝居の朗読とピアノで創作物語を演じた。

◎源田俊一郎、ふるさとの四季 15分 ソリストを含む混声合唱団

◎サウンドオブミュージック抜粋 40分

これはソロパート歌手と混声合唱と児童合唱それぞれによる日本語での演奏

広 報：

区教育委員会を通してあるので、区立幼稚園4園 小学校38校 中学校19校、その他区の公共施設など、世田谷区を重点にチラシを置いてもらった。

#### 4 財団主催音楽鑑賞講座の開催

本年度は松本記念音楽迎賓館の施設を使い、3つのレクチャーコンサートを実施した。

① 7月28日（日）14時 テーマ「ゴールドベルク変奏曲の再発見」

演奏とお話；平沢匡朗（まさあき） 一般3,000円 学生以下2,000円

内容はJ. S. バッハのゴールドベルク変奏曲をチェンバロとピアノで弾き比べ、曲の成り立ちを解説するもの。バッハファンには興味深いテーマで56名参加。

② 9月22日（日）14時 テーマ「通奏低音としてのチェンバロ」

演奏とお話；渡邊温子（チェンバロ） バロックヴァイオリン演奏；塩野入清美

一般2,500円 中学生以下1,000円

内容はバロック演奏に欠かせない、チェンバロの通奏低音演奏の役割を理解し、体験いただくもの。音鑑小委員会の設定による学術的なテーマで、参加者は29名。

③ 10月19日（土）14時 テーマ「長井浩美のオルガン物語」

演奏とお話；長井浩美 助手2名 一般2,000円 中学以下1,000円

内容は、パイプオルガンの仕組みからオルガン談義、そして演奏の楽しみの副題に基づき、オーケストラとの共演も多く、多くの演奏機会を誇る出演者が、オルガンにまつわる話を、随想的に語り、演奏したもので42名参加。

#### 5 電子書籍の発行

音楽をより楽しく鑑賞するために“音楽が聴ける本”としての強みを活かした電子書籍は、第3弾「シューベルト：『魔王』『野ばら』」を発行した。

構成・執筆：渡邊學而（当財団常務理事／音楽評論家）

#### 6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

● 音楽に関わる人の育成

例年通り、Aホール等の空いている時間帯を、レッスン利用と称し、使いやすい価格での貸与を通して、音楽鑑賞の場を提供する演奏家の育成に努めた。

● コンサートの支援

松本記念音楽迎賓館を活用する演奏家が、演奏会を安心して開催できるよう、運営を手伝うなど、共催制度を活用した。また、桜の季節の平日は、館ご利用の常連の演奏家による友の会会員に対し、特別料金で演奏会の場を用意、松本記念音楽迎賓館への来場者を増やすよう努めた。

#### 7 チェンバロ音楽普及の支援

Aホールはチェンバロとの相性が良いとの定評もあり、バロック音楽に欠かせぬ楽器のチェンバ



口の普及活動を例年通り支援した。

- ・日本チェンバロ協会主催の5月11日、12日チェンバロの日の開催の後援をした。  
内容 今年のテーマは「いろいろな調律」。  
鍵盤楽器の発展と調律の題で座談会が参加者の興味を惹きつけ、耳による調律の大切さが問われた。  
また講習会「聴衆を音楽に導くにはどうすべきか」では、演奏家が「聴けばわかるはず」という驕りをやめ、聴衆と知識や体験を共有し演奏会を作り上げる大切さが披露され、音鑑の進めるレクチャーコンサートの重要性も再認識した。  
入場者 122名
- ・若手演奏家の発掘・育成としては、曾根麻矢子氏の主催する講座を8回支援した。
- ・2月16日に、日本チェンバロ協会主催、上菌未佳氏指導のフリーコンサートを支援した。

## IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

### 1 岡本地域緑地の保全活動

世田谷区の保存樹林地に指定された松本記念音楽迎賓館の庭園を保全した。

### 2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座をNPO法人せたがや水辺デザインネットワークの実施協力で開催した。森林や自然の生き物の説明は、それぞれ専門家の実地指導で行われた。

講座名	開催日	講座内容	受講者数
春の講座	5月26日(日)	地域の地質と草木の講義を生態観察	15名
夏の講座	9月22日(日)	地域の湧き水と生き物、植物の観察	18名
秋の講座	12月22日(日)	木の実と自然のリサイクルの観察 (この回はクリスマスリース作りがあり人気が高い)	27名

(各回 4時間)

## V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

本年度も館の諸施設を演奏や音楽発表会以外の目的で貸し出し、収入を得ている。

ドラマの撮影は、21回と例年水準。5月に撮影が多く入り、その利用単価も高かったことから、収益事業全体に貢献した。

音楽番組の収録は1回 お茶会も1回だが、お茶の練習でのご利用もあった。

附属明細書

事業における重要な事項は令和元年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規制」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無い。